

**オスマン帝国** 13世紀末、アナトリア（小アジア）で建国。建国者はオスマン1世。

オスマン帝国のスルタンは、**バヤジット1世**、**メフメト2世**、**セリム1世**、**スレイマン1世**の4人を押さえよう。

位1389-1402 位1444-46, 1451-81 位1512-20 位1520-66

セルジューク朝がマンジケルトの戦い(1071)に勝ってアナトリアを確保すると、王族の一人（セルジューク朝分派）の下にトルコ人戦士が結集し、1077年、**ルーム=セルジューク朝**（1077-1308）を建てた。セルジューク朝もこれを容認。オスマン家は中央アジアからやってきてこの王朝に仕えた勇猛な軍人集団だった。

**I 地中海の南北にまたがる大帝國に発展するまで** 以下君主の代ごとに見ていこう。

《初代》セルジューク朝本体は1194年滅亡し、ルーム=セルジューク朝も13世紀後半以降、モンゴルの攻撃で衰退、1308年滅亡すると、アナトリア各地に侯国が建国され混乱状態となった。この機に乗じて、ルーム=セルジューク朝に仕えてきたトルコ人戦士、オスマン家のオスマン=ベイは13世紀末、アナトリア西北部にオスマン朝を建国し、【1:

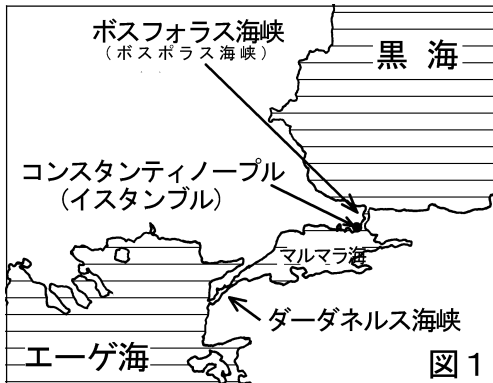
】#1位1299-1326として即位した。初期の首都は【2: 】(1326遷都)。ビザンツ帝国と戦いオスマン帝国の基礎を築く。《第2代》は省略

《第3代》1362/63年、ムラト1世 #3位1362?-1389は【3: 】(現在のトルコ共和国、エディルネ)を占領、1366年、ここを首都とし、バルカン半島へ進出した。初めて**スルタン**の称号を用いた人物とされる。1371年、マケドニア・ブルガリア征服。当時ブルガリアはマケドニアの支配下。図5で【2】【3】【9】の位置をチェック！1389年【4: 】で、ブルガリア、セルビア（以後500年近く支配下に置く）などの勢力を破ったが最終盤で暗殺された。このころ、デウスィルメにより、**イェニチェリ** (No.88参照)を創設したとされる。

《第4代》1396年 **バヤジット1世** (雷電王) #4位1389-1402は、【5: 】(図4)で、ハンガリー王を中心とするフランス、ドイツなど西欧諸国（これも十字軍という）・バルカン諸国連合軍を破り、ドナウ川以南の地を確保、バルカン半島の大部分を支配した。この時敗れた神聖ローマ皇帝は、【6: 】(位1411-37 この敗戦で捕虜にはなっておらず即位は戦後)。しかしながら、オスマン帝国は1402年、【7: 】(図5)でティムール軍に敗れ、迅速な決断で名高い【8: 】は、1403年、捕らえられたまま病死！11W その後11年間スルタンは空位が続き、小アジアはティムール帝国の領土となり、オスマン帝国は内戦状態となって滅亡の危機に瀕した。

《第5代》**メフメト1世** #5位1413-21が再統一後、失地を回復。短い治世ながら帝国再建に努めた。《第6代》省略

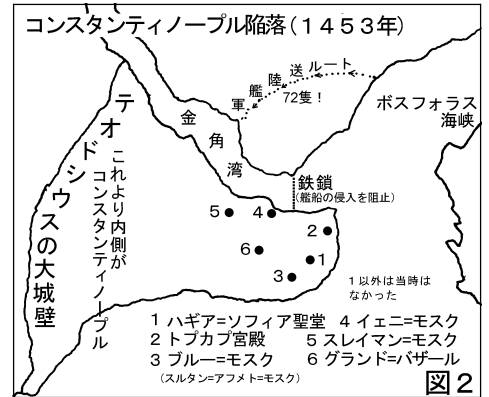
《第7代》1453年、オスマン帝国第7代スルタン、**メフメト2世** #7位1444-46, 1451-81は【9: 】を攻撃※1、占領した。これによって**ビザンツ帝国を滅亡させた**。この勝利は圧倒的な経済力による。兵力10~12万（ビザンツ帝国は7千~1万）。彼は征服者（ファーティフ）の異名を得た。彼は同年コンスタンティノーブルに首都を遷して、**グラド=バザール**（の前身）を設置、本国の富豪を無理矢理移住させ、異教徒も含めて商人・手工業者の移住を奨励する等、都市振興策をおこなったので、人口と繁栄を取り戻した。人々は、ここを【10: 】(イスラーム教徒の街)と呼んだ。人口約50万。東西交易で繁栄。1475年、クリム=ハン国を服属させ、トプカブ宮殿を造営した。《第8代》は省略



※1 メフメト2世のコンスタンティノーブル攻めは1453年で、ヨーロッパでは百年戦争が終了した年。

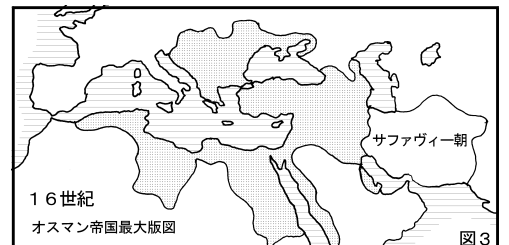
図2は図1のコンスタンティノーブル付近を拡大したものである。

図1の2つの重要な海峡の名称を記憶せよ。海峡というより、「川」に近いほど狭い。



《メフメト2世のコンスタンティノーブル攻め》守備側のビザンツ帝国の海からの攻撃に対する守りはまさに鉄壁。陸上には巨大な「テオドシウスの大城壁」があり難攻不落！ビザンツ帝国は金角湾入り口を鉄鎖で閉鎖し北海岸からの攻撃はないものと油断していた。メフメト2世は、ボスフォラス海峡の小さな入江から、金角湾に、山を越えて軍艦を陸送するという奇想天外な戦略を実行する。まず、輸送路を平坦にして、油を塗った丸大を並べた、あるいは板に油を流したとも言われているが、人力、畜力で、約70隻の軍艦を本当に陸送したらしい。思いもかけない北海岸からの攻撃（北海岸には砲台がほとんど無かった）でビザンツ帝国軍は浮き足立った。かねて、ハンガリー人技術者ウルバンを雇い巨大な大砲を作らせ、10万を超える大兵力を動員するなど、奇策というより経済力の勝利であった。

《第9代》16世紀、第9代スルタン【11: 】(冷酷者) #9位1512-20は、**チャルディランの戦い**※2(図5)で**サファヴィー朝**を破り(1514)、マムルーク朝との雌雄を決した**マルジュ=ダービクの戦い**(図5)に勝ってシリア北部を攻略(1516)、さらに**カイロ**を攻略(1517)し、**マムルーク朝**を滅ぼした(1517)。その支配下にあった【12: 】を征服。1517年、2聖都（メッカ、メディナ）の支配権を確立。既に1516年にアルジェ※3を占拠したバルバリア海賊のバルバロス兄弟が、1518年にオスマン帝国に帰属することを宣言し、



翌1519年セリム1世は支配を決定。アルジェリア支配(1554)、チュニジア支配(1574)は後年であるが、オスマン帝国は地中海の南北にまたがる大帝國に成長した。なお、オスマン帝国はモロッコを支配したことはない。11J

※2 イェニチェリ歩兵軍團の鉄砲隊が、サファヴィー朝の騎馬軍團を破った。

※3 オスマン帝国支配時代のアルジェは、オスマン艦隊の拠点となり、ヨーロッパ諸國から海賊海岸として恐れられた。その後230年間にわたって、行政・交易・地中海での海賊活動の中心として栄えた。

## II 最盛期のオスマン帝国＝スレイマン1世時代

《第10代》【13: 】(#10位 1520-66 セリム1世の子)の時に、オスマン帝国は最盛期を迎えた。検地、税制、官僚制については充分な規定を持たないシャリーアを補足する法令(カーヌーン)を積極的に制定したので「立法者(カーヌーニー)」とも呼ばれる。フランス王フランソワ1世(「フランス＝ルネサンスの父」と同盟を結び西欧諸國を圧倒。以下はスレイマン1世の業績である。

1521年 ハンガリー王國からベオグラードを奪取。

1522年 聖ヨハネ騎士団からロードス島を奪取。

1526年 【14: 】ハンガリー王ラヨシュ2世を敗死させ、160年間ハンガリーを支配。モハーチはドナウ川中流右岸にある。フランソワ1世の支援要請に応えたもの。

1529年 【15: 】(第一次) フランスとの同盟を背景に、神聖ローマ帝國の首都ウィーンを1か月間包圍。これもフランス支援が目的の一つ。オーストリア軍が頑強に抵抗、補給不足・早すぎた冬の到来などでオスマン帝國軍が撤退したためウィーンは陥落を免れたが、西欧諸國は「トルコの脅威」を強く感じた。

1535年? 従来の説ではスレイマン1世が、仏王フランソワ1世にキャプチュレーションを与えたとされる。

(1569年にセリム2世 #11位1566-1574が仏に与えたとする新説の方が有力。両方覚えること!)

1538年 【16: 】(図4) バルバロッサ(赤ヒゲの元海賊)の率いるオスマン海軍が、スペイン、ヴェネツィア、ローマ教皇の連合艦隊を打ち破った。オスマン帝國は、クレタ島、マルタ島を除く、地中海の東から約4分の3にわたって制海権を確保した。

1557年 イスタンブルに【17: 】を建立(現存)。その大ドームは聖ソフィア大聖堂と同じ構造である。直径26.5m、総高53m。

カピチュレーション※4については、1535年にスレイマン1世が仏王フランソワ1世位1515-47に与えたとされてきたが、スレイマン1世時代に一般化した慣習を、1569年にセリム2世が仏王シャルル9世位1560-74に対して公認したのが最初である。

※4 通商上の恩恵の特権で、当初の内容は、租税免除、身体・財産の安全保障などだった。オスマン帝國の衰退とともに、拡大解釈され、領事裁判権や関税の特例措置を含むものとされ、帝國主義時代には事実上の不平等条約として機能した。わが國に対する幕末の不平等条約の原型はこうしてできた。廃止は第一次世界大戦後である。



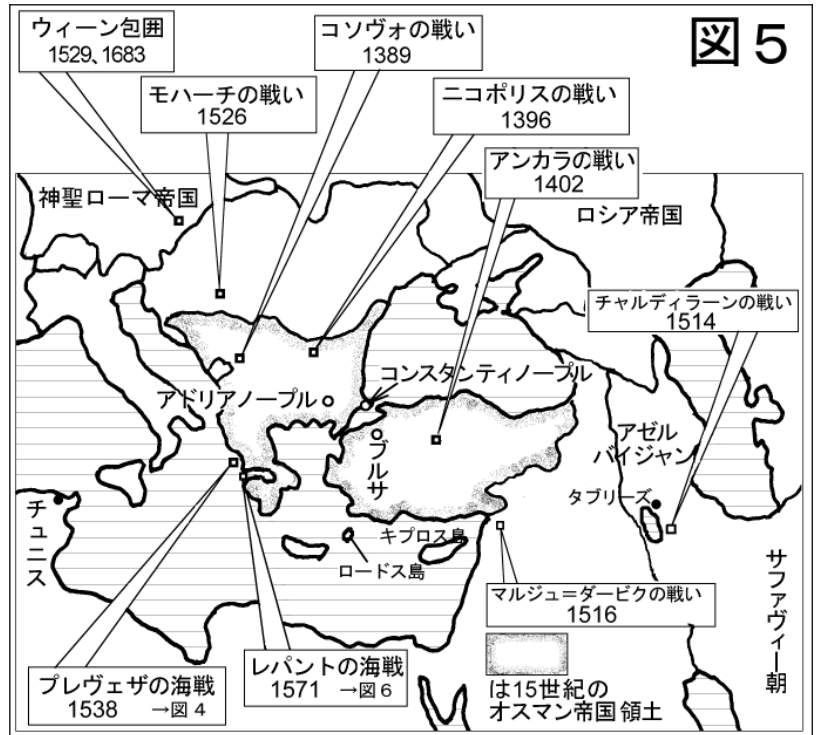
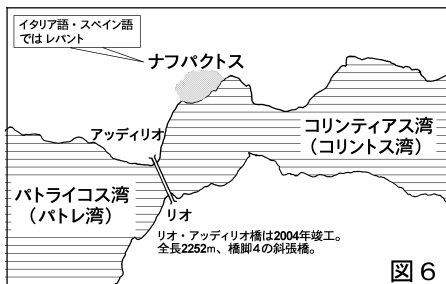
## III オスマン帝國に陰りが・・・

しだいに守勢にまわるオスマン帝國

1571年 【18: 】(図6)

キプロス島をめぐる対立からレパントの海戦が起きた。オスマン海軍がスペイン、ヴェネツィア、ローマ教皇の連合艦隊にギリシアのコリントス湾口のレパント Lepanto 沖で戦い大敗した。オスマン帝國の地中海覇権は一時的に後退したがすぐに立ち直った。セルバンテスが一兵卒として戦列に加わっていた。美しい海が血の色に染まった。これはオスマン帝國の地中海覇権に大きな影響を与えるものではなく、16世紀まで維持された。ちなみに、スペイン國王はフェリペ2世。

オスマン帝國は、1573年にはキプロス島、1574年にはチュニジアも支配下におさめた。



レパントの海戦(1571)のレパントはイタリア語、スペイン語での呼び名であり、現地ではナフパクトスと呼ばれ、今は海水浴場もある魅力的なリゾートである。「レヴァント貿易」の「レヴァント」は地中海東岸地域(シリア・パレスティナ)を指す。レパントとレヴァントは全く無関係。

《補足》プレヴェザの海戦(1538)とレパントの海戦(1571)、そして古代ローマ帝國初期のアクティウムの海戦(BC31)は、きわめて近い海域で行われた。

## IV 17世紀末以降、オスマン帝國は徐々に衰退。

No.145を参照せよ